

事務局／旭川市金星町1丁目1-52  
☎(0166)22-2361

<http://www.kyoku-shi.com>

## ●●● 虫歯や歯槽膿漏だけではないお口の病変 ～口内炎～ ●●●

旭川医科大学歯科口腔外科学講座 松本 章助教・松田光悦教授

お口の病変といえば、虫歯や歯槽膿漏など歯に関係したものが大部分を占めます。しかし、口の中には歯以外にも、舌・歯肉（歯ぐき）・頬・口唇・口蓋といった部分を覆っている粘膜組織も存在し、この部位にも色々な病変が発生します。我々の専門用語ではこれらの病変を口腔粘膜疾患とよんでいます。皆さんはこれらの病変を“口内炎、”と表現することが多いと思います。“口内炎、”は見た目では同じような状態を呈することが多いのですが、実は数多くの病変があり、中には全身的な疾患が原因の場合、悪性腫瘍やその前段階の病変である場合、また、悪性ではなくても難治性の病変である場合もあります。今回はこの“口内炎、”について簡単に解説致します。

### 一般的な口内炎の特徴

通常の口内炎は、多くの場合、中心が白っぽい直径1～10mm大の浅い潰瘍で、周囲が赤くなっており、口唇や頬の粘膜部に1～数個発生します。これはアフタ性口内炎とよばれ、粘膜が何らかの理由により傷つき、そこに炎症を起こし浅く潰瘍化することで発生します。症状は、炎症が起こっている部位に痛みがあります。この痛みは何もしていない時に起こる場合と、食事をしている時に起こる場合とがあり、痛みが強いときは、食事も満足に摂れない場合もあります。通常、2週間前後で自然に治癒するものがほとんどで、治療の必要がないか軟膏塗布やうがいといった対症療法のみで十分な場合が多いです。しかし再発を繰り返して常に数個の口内炎ができていた場合には、自己免疫疾患の一つであるベーチェット病や他の内科あるいは皮膚科疾患の一症状の可能性もあるため、詳しい検査が必要となります。

### 口内炎の原因と対処法

口内炎の原因には、歯ブラシがぶつかったり、誤って嚙んだりするなどの物理的刺激や、ウイルス・かび・細菌の感染、金属アレルギーなど、口の中の原因による場合と、ビタミン不足などの栄養障害、自己免疫異常の病気、薬物アレルギー、胃腸障害など全身的原因によって起こる場合もあります。日頃から、口を清潔に保ち、歯磨き時に粘膜を傷つけないように正しい歯磨きを行う、栄養バランスのよい食事を心がけるなど全身の健康にも気を配ることが大切です。口内炎になったときには、①しょうゆや香辛料、たばこ、酒など刺激物はなるべく控える ②うがいや歯磨きを心がけ、口を清潔に保つ ③歯磨き時に、患部を傷つけないように気をつける、といったことに気をつけましょう。

### 注意を要する口内炎

①小さな水ぶくれの後に口内炎を呈する場合、②口内炎の範囲が広く中心が赤くただれている、あるいは表面全体が白く変化している場合、③疼痛はあまりなくても、表面が白い線状やしこりとなっている場合、④しこりをふれる場合、⑤発生から10～14日経過しても治癒せず、疼痛の増大や範囲の拡大を呈する場合などでは注意が必要で、早めに最寄りの歯科医院または総合病院の歯科口腔外科にご相談することをおすすめします。



写真1：アフタ性口内炎  
一般的な口内炎

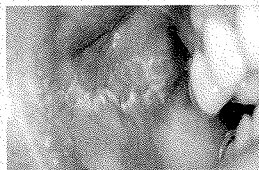


写真2：扁平苔癬  
難治性の口内炎、  
前癌病変(数%癌化)

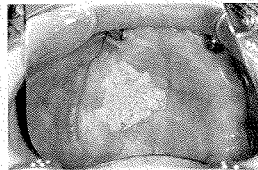


写真3：白板症  
前癌病変(10～15%癌化)



写真4：舌癌  
悪性腫瘍